



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2019年度 研修生受入事業 —
(終了時評価—2020年4月)

個別研修生受入（一本釣り）

研修生受入の概要

研修コース名	個別研修生受入（一本釣り）
参加国及び参加人数	1か国 2名（ミクロネシア連邦）
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国かつお・まぐろ漁業の重要な漁場をその EEZ に有する太平洋島嶼国では、自国のかつお・まぐろ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船に自国民を乗船させ雇用拡大を図ろうとしている。</p> <p>本研修は、ミクロネシア連邦（以下「ミクロネシア」という。）から要望のあった、かつお一本釣り漁船を対象としたミクロネシア人乗組員の育成を行うもので、研修生の「漁船乗組員としての資質向上」及び「漁撈活動に従事するための基礎能力の習得」を図ることにより、当該国の沖合漁業の振興に貢献するとともに、我が国との協力関係の維持・発展を図るため設定されたコースである。</p> <p>なお、研修を修了した外国人乗組員は、将来的には日本漁船に就業の場を求めることもあり、乗組員不足に直面する我が国遠洋漁業の支援となることも期待される。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2019年9月4日～2020年1月24日（143日間）</p> <p>一般研修：2019年9月5日～9月27日（23日間） （研修場所：静岡県立漁業高等学園）</p> <p>技術研修：2019年9月28日～2020年1月24日（119日間） （研修場所：日本かつお・まぐろ漁業協同組合組合員のかつお一本釣り漁船）</p>
上位目標	関係途上国の水産業における雇用が増大する。
研修目標	将来的に良質な部員クラスの漁船乗組員が育成される。
成果	かつお一本釣り漁業の基礎知識及び船上甲板漁撈技術が習得され

	た。
活 動	<p>1) 一般研修 学科講義：日本語基礎会話、かつお一本釣り漁業の基礎的技術 実技訓練：ロープワーク（刺し継ぎ）、漁具（疑似餌）作製、水揚げ等</p> <p>2) 技術研修 かつお一本釣り漁船での漁撈実習（漁撈技術及び漁船上の労働・生活慣習）</p>
投 入	<p>財団側</p> <p>1) 一般研修 人的投入（講師等）：講師（常時）1名以上、研修監理員1名 物的投入（研修資材等）：日本語テキスト、一本釣り実技訓練用資材（ロープ等）</p> <p>2) 技術研修 人的投入（指導員等）：各実習船に1名以上 物的投入（研修資材等）：実習船に装備されている漁具、漁撈機器、航海計器類等</p> <p>3) 事業費 4百万円</p> <p>受入対象国側 投入なし</p>

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

ミクロネシアは、かつお・まぐろ漁業の開発振興を国の重要な政策としている。

また、国内に就業の場が少ない若年者層の雇用促進策の一環として、我が国の遠洋漁船への乗船も推し進めている。

本研修は、かつお一本釣り漁船を対象とした部員クラスの漁船乗組員の育成を目標としており、ミクロネシア政府の漁業振興政策及び若年者層雇用促進施策を人材育成の観点から支援するもので、相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

一般研修及び技術研修内容は、かつお一本釣り漁船の甲板部員に必要な基礎的な知識及

び漁撈技術を広角的に習得させるものであり、実施計画は妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、船上で必要な知識及び技術の習得のための学科講義並びに実技訓練等を陸上で実施したうえで、技術研修として乗船実習を実施した。

いずれも指導員又は研修監理員を適正に配置するなど、研修生活の実態を考慮した計画を作成した。

4. その他

特になし。

◆ 効率性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修では、静岡県立漁業高等学園において、日本語基礎講座及び一本釣り漁業の実技訓練に経験豊富な指導員を配置した。

技術研修では、かつお一本釣り漁船の漁撈長や士官が指導員となり、実践的な指導を行った。

これら多様な指導員の配置に加え、研修教材及び資材並びに使用される施設等は計画通りに投入され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

研修日数、講義、実習の内容及び水準並びに指導方法は、日本側関係者と受入機関との調整を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標：良質な部員クラスの漁船乗組員が育成される

一般研修及び技術研修を通じて、一本釣りに係る基礎知識、漁撈技術や漁船内の労働慣習等をも理解し、かつお一本釣り漁船の部員クラスの乗組員としての知識と技術を習得したと判断され、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）
特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

研修目標である部員クラスの漁船乗組員の育成が達成され、ミクロネシアの沖合で操業する漁船に人材が供給されることにより、上位目標である関係途上国（ミクロネシア）の水産業における雇用の増大に対し、インパクトを与えることができる。

2. 分野別研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

ミクロネシアにとって、かつお一本釣り漁船員が育成されることは、かつお一本釣り漁船への雇用機会が増えるとともに、同国の水産振興に必要な人材の育成・確保への効果が得られる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生は、研修修了後、我が国かつお一本釣り漁船に乗り込む予定であり、習得された漁撈技術等は有効に活用できる見込みである。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上